



丸一金属工業株式会社

気まぐれ通信 1 年目 ver.1.00

(余談続編)

著作 吉村 郁祐

丸一金属工業株式会社会議資料より「気まぐれ通信」タイトル一覧 平成 21 年 9 月～平成 22 年 8 月の 12 ヶ月分

- 其の 1 平成 21 年 9 月 9 日●総理と首相
- 其の 2 平成 21 年 9 月 24 日●秋の夜長
- 其の 3 平成 21 年 10 月 13 日●焼き鳥屋でのお節介？
- 其の 4 平成 21 年 11 月 17 日●「からしめんたいこ」の危機！？
- 其の 5 平成 21 年 11 月 24 日●無の用
- おまけ** 経済成長年率 4.8% 成長！？
- 其の 6 平成 21 年 12 月 2 日●本来の言葉^{りよく}力を無くす日本人 ～低下するコミュニケーション力～
- おまけ** 崩壊^{ニッポン}日本
- 其の 7 平成 21 年 12 月 22 日●お餅よもやま
- 其の 8 平成 22 年 1 月 5 日●中国を味方につける！？
- 其の 9 平成 22 年 1 月 12 日●色話し
- 其の 10 平成 22 年 1 月 19 日●阪神・淡路大震災の記憶
- 其の 11 平成 22 年 2 月 9 日●トイレ ウンチク話 ～ウォシュレットと信号機～
- 其の 12 平成 22 年 2 月 16 日●江戸の敵を長崎で ～やはり狙われた！？民主党政権下のニッポン～
- 其の 13 平成 22 年 3 月 1 日●日常の魔物と対峙する 3 月 1 日の朝礼 + α
- 其の 14 平成 22 年 3 月 16 日●東大寺の「お水取り」
- 其の 15 平成 22 年 3 月 23 日●驚異の靴下 ～モノの寿命と経済循環～
- 其の 16 平成 22 年 3 月 30 日●自転車化する！？ハイテク製品
- 其の 17 平成 22 年 4 月 13 日●いつか来た路
- 其の 18 平成 22 年 4 月 20 日●トラスト・ミー ～誰が評価するのか？～
- 其の 19 平成 22 年 4 月 27 日●子供の日よもやま話
- 其の 20 平成 22 年 5 月 25 日●パソコンを日常使っていても痴呆症になる！？
- 其の 21 平成 22 年 6 月 8 日●中国の熱と冷
- 其の 22 平成 22 年 6 月 15 日●これからの季節、、、
- 其の 23 平成 22 年 6 月 22 日●事前の尻込みは、後の百策を無力にする
- おまけ** 急速に低下する日本の国際的地位

おまけ タコくんの占い

其の25 平成22年 7月20日●日本の花火の原点

其の26 平成22年 7月27日●変わる生産の根幹

其の27 平成22年 8月3日●戦争に反対した帝国軍人

おまけ セミヌード

其の28 平成22年 8月17日●マツタケよもやま話

「きまぐれ（気紛れ）」とは「定まった考えがなく、その時々で気分が動かされやすいこと。また、その時々で思いつきで行動するさま。」と広辞苑にあります。私には一応定まった考えがあるつもりですので「その時々で思いつきで行動するさま。」の意味で、気が向いた時に書き記す「きまぐれ通信」で「余談」の後の新たなスタートを切ります。

其の1

●総理と首相

民主党中心の政権となって1週間余り。今までの「選挙後」と違い、さまざまな変化と変動のニュースが流れていますね。選挙民の不安と期待を一身に背負っています。日本では与党の党首であれば半ば自動的に一番エライ人になる。長〜い選挙で勝ち得るアメリカの大統領の座とは重みが違うのを改めて感じます。

さて、日本ではそのエライさんの地位を内閣総理大臣と言い、総理や首相、時には宰相とも言ったりします。また各担当大臣を〇〇相などと言った呼び方をしますね。このようなさまざまな呼称はどこから来たのでしょうか？

「大臣」とは、政治を司^{つかさど}る高官を指し、明治初頭までの「太政官制度」と言う政治の作りで太政大臣、卿などと呼ばれた役職がありました。そして近代政治の「内閣制度」に変わったものの「〇〇大臣」の呼称は引き継がれたようです。「総理大臣」ともなると全てに責任を持つ高官と言った意味を持ちます。また「宰相」とは元々中国の政治制度の引用で、天皇（皇帝）の^{もと}下で政治を執^とっていた人々を指し、それぞれの役職で「〇〇相」などと呼ばれた訳です。そして宰相達のトップが首相となる訳です。だから本来「宰相」に「首相」の意味を持たすのはおかしいのです。と言う訳で「宰相」が「首相」に使われる時は「ワンマン宰相」などと、その首相の人となり^{ひゆ}を^{ひゆ}（例える）する言葉が前に入るのだと思います。

それでは、総理・首相・大臣などはどのような使い分けをしているのでしょうか？新聞ニュースでは省スペースや手短かに伝える為「首相」「〇〇相」は、、、などと書いていますが、丁寧にニュースを伝える時、または、議会や記者会見などで答弁やコメントを求めるときには「総理」「〇〇大臣」などと呼びかけているのに気付きます。要するにお願いをする時には、謙讓^{けんじょう}（相手に対し一歩下がった）の姿勢で使っているのかも知れません。そういえば「ソーリ、ソーリ」と叫んでいた議員さんは、決して「シュショー、シュショー」とは言ってなかったですね。この人の場合、謙讓の姿勢は感じられませんがね（笑）

2009年9月9日

其の2

●秋の夜長

過日、テレビで「中秋の名月」の話題をやっていました。街頭アンケートでは「9月15日」がその日だと言う認識が多かったのですが、実際は旧暦に基づき、今年は10月3日だそうです。月の角度は、冬は高い位置にあり、夏はかなり低い位置と言うわけで、秋と春は丁度見やすい角度に月があるので、鑑賞するにはもってこいなのだとか。春は黄砂などで霞^{かす}んでしまい、はっきりと月が見えず「おぼろ月」となり、くっきり見えて見やすい角度の「名月」は、だから秋なのだとか。

さて、盆が明けるとセミの鳴き声も急に減り、代って耳にするのがコオロギなどの虫の音^ね。お月さんと並ん

でいかにも秋の風情を感じさせてくれます。昔から俳句や短歌などでは自然の現象を巧みに採り入れ、その叙情を短い詩歌の中で表現しているのですが、日本人はそのような文化お陰か、虫の音や川のせせらぎと言った自然の音を「何気ない自然からの便り」として言葉のように捉えているのだとか。

片や西洋人はそれらを単に「音」として感じ取り、脳は雑音として処理していると言われます。

と言う訳で私達はこれら自然の便りで、しばし「秋の夜長」を楽しめるのです。

しかしながら、過ぎたるは及ばざるが如し。あまりににぎやかな虫の音は、いくら日本人でも雑音になってしまいますよね～

2009年9月24日

其の3

●焼き鳥屋でのお節介？

3ヶ月程前だろうか。近所の焼き鳥屋で座っているとアルバイト君が私の後ろを通ると私に軽くぶつかる。都合4回ほどだが少々頭にきていた。謝りもしないから当然である。

彼の休憩時間になったのか私の隣で賄^{まかない}を食べ始めたのである。人にぶつかっても謝らない。食事の前に「いただきます」も言えない、、、で遂に堪忍袋の緒が切れて・・・

「オマエ～！！」と先ず一喝。

「人に当たっというて謝らんのかっ！！お前、4回も当たったん分かってるやろっ！！」と怒鳴ると、小さい声で「ハイ・・・」と返事。

輪を掛けて「飯の前に『いただきます』も言えんのかっ！！」とまた一喝。

そのアルバイト君は、ただただ言われた仕事をすれば良いと思っていたのだろう、1ヶ月後にその店に行く^{と見違えて接客、姿勢が良くなっていた}。私が入ったら、すかさず「この前はすみませんでした。」と言ってくれたのは言うまでもない。

注意した事でその人が向上する、、、嬉しい限りだと感じる事でした。

注意された事を真っ直ぐ受け入れる姿勢、逃げない姿勢が人を向上させます。

(10月16日朝礼より)

とは、言いつつも今の日本人は逆ギレ易いので、同席したヨメや友人達に注意を受けてしまいました。この朝礼の数日後、社員が大チョンボをしたので他の社員にも緊張感を持たせるよう現場でわざと大きな声で叱るとその君はビビってしまい、数日間休んでしまいました。(苦笑)「こんな怒られ方はした事がない、、、」と。柔いですね～。しかし、緊張感を持たせて仕事をさせる事は大切な事なのです。私のやり方は少し過激かもしれませんがね。

2009年10月13日

其の4

●「からしめんたいこ」の危機！？

日常生活でスーパーマーケットでも手軽に買えるほど身近な「辛子明太子」。「明太」とは元々韓国語で「ミョンテ」と読み「鱈(=スケトウダラ)」の事を指すそうです。その卵(=子)と言う事で、「明太子」はまさしく「タラコ」そのものなのです。塩漬けや辛子を多用する朝鮮半島の文化の中「辛子明太子」はごくごく日常の食べ物の1つでした。朝鮮半島の文化は北九州を中心に日本に伝わり、その食文化も例外ではありません。以前「ラーメン奇談」で書きましたようにラーメン屋台のチャルメラも朝鮮通信使が起源でしたし茶室など建物様式の文化もそうです。

日本で全国的にその名が広まったきっかけは1975年の山陽新幹線の全面開通と言われます。それまで地元の食材として細々と生産されていたものが物珍しい土産として爆発的に売れ出したのです。当然、博多を中心として雨後のタケノコのように明太子会社が次々と出来、百花繚乱の様相だったと言います。中には品

質もいい加減な会社も多かったようです。しかしながら時代の流れで全国的に製造業者が出来、珍しさも半減。先に書きましたように気軽に手に入るようになった事に加え、昨今の不況で地元の名産品としての売上は激減。それら製造業者の中は通販にわざと切れ子(形の崩れたもの)を作って提供しなければならない程、売上に窮する事態となっているとの事です~(´`) 厳しいものですね、

2009年11月17日

其の5

●無の用

世の中には、存在無き物が必要とされる事がある。身近なものが笛の空間。空間~何も無いスペースですがこのお陰で空気が震えて美しい音色を奏でる。私たちの生活においても存在するのが、無にもしない時間がその1つでしょうか?忙しい合間にボケ~っとする時間。それもまた「無の用」なのかもしれません。

その一見無意味な時間を上手く使いこなす事が心など精神的な部分の癒しとなりうるだけでなく、将来に生きてくる可能性だってありそうです。

一方、必要無いのにやっている事。これは「無駄」と言われます。本来、荷物を乗せて運ばせる馬に何も乗せ無い事を無益とする意味から来た言葉でしょうね?

「無の用」「不要の無駄」これらを上手く見極める事は難しいかも知れませんが見極める力を養う事は大事な事と感じます。

2009年11月24日

おまけ

●経済成長年率4.8%成長!?

内閣府発表の7~9月のGDPは前年同期比1.2%。年率にして4.8%と高い数字となった。しかし実体に近いとされる名目GDPは0.3%減と誠に寒い状況である。

上記、1.2%の内容は、内需0.8%、外需0.4%で内需の内0.7%増は個人消費とされエコポイントやエコカー減税で耐久消費財が7.1%増加したのが寄与している。設備投資は1.6%増。外需の0.4%増に関し、中国を中心としたアジア向け並びに北米向けが6.4%増加となった。輸入は円高にも拘わらず3.4%増に留まった。一方住宅投資は7.7%の減となり9ヶ月連続で低下している。公共投資も政権交代のあおりで低迷が続いている。

私の知り合いの中小企業の社長さん達の情報では、10月以降の注文がバツリと止まり仕事の確保に汲々とされている会社が多いのには身をつまされる思いである。

国の発表との乖離にはいつも首をかしげています。

其の6

●本来の言葉力を無くす日本人 ~低下するコミュニケーション力~

サッカーのワールドカップに於いて昨年0勝3敗と散々な成績で終わった事を記憶されている人もいるだろう。過日のテレビ番組で敗因は選手同士のコミュニケーション力がサッカー協会の分析の結果だとの事でした。選手1人1人の力量が一流でも、チームプレーとなると言葉やサインプレーがそのチームとしての総力を発揮するのであるがそれが欠落していると言うのである。

暑くて喉が渇くような日、子供はジュースを欲しがり、親などに唯々欲しいものとして「ジュース」と言う。そのままジュースを差し出すと子供はせがんだものが自動的に出てくると錯覚し、それ以上の事は言わなくなる。本来であれば親が子供に「どうしてジュースが欲しいの?」と問いかけ、子供は考え「喉がかわいたから」と答える。更に「どうして喉がかわくの?」と問いかけ「暑いから」と言う答えを子供から引き出す。これで「暑くて喉がかわくからジュースをちょうだい」と言う一文が完成するのである。このような日常の

教えが本来持つコミュニケーション能力を目覚めさせ、考える力を伸ばしてくれるのである。これを怠ると脈絡のない話し方しか出来ず、ましてやマトモな文章も書けない。かくてこのように普通の教育がなされないままに育ってゆくと社会に出てからの行動にも現れる。深く考えられない。思考に脈絡がないから、思い付きで行動し勝手きままな状態で他に迷惑を掛けている自覚の無い自己中心な行動や言動を取る「動物」となってしまうのである。自然の動物でも何らかのルールを持って行動しているのですが、そういった意味では動物以下なのカモ。世の現象として「学級崩壊」がその好例かもしれません。先生の言う事も聞かず、教室をうろついたり勝手きままな行動をし授業にならない。先生もコミュニケーション能力が低く対処がわからないからなにも出来ない。以前にも書きましたが「言葉は人類に与えられた恐ろしくも素晴らしい道具」なのです。その言葉力の低下は、国力の低下、当然会社力の低下にもつながります。

(12月2日の朝礼+α)

おまけ 崩壊^{ニッポン}日本

以前書きましたように、民主党は元自民党議員が多く烏合^{うごう}の衆、当時の党首（現幹事長）は、田中角栄の愛弟子で骨の髄まで自民党。勝手な論理でめいめいが好き勝手をしている。まさに「学級崩壊」状態の内閣。中国に迎合し、アメリカを怒らす。小沢氏の在日米軍基地の持論に対し、米国からの圧力に対するアテツケでしょうか？「売国・亡国内閣」と化しています。まんまと中国の思惑に乗って（はまって）しまって・・・気が付けば日本は中国の下部^{しもべ}の国となっているでしょう。日本の侵略に関する安全は日米安保条約が有ったからで、その傘の下で長く平和だったのを勘違いして「米軍がいなくても平和じゃないか」とノタマウ人たちがいる。ノー天気にも程がある。かくて日本の政界トップから、幼稚園にいたるまで、あちこちで「崩壊」、...

其の7

●お餅よもやま話

私には餅は正月、、、と言うイメージがあります。それは大晦日ともなると近所の和菓子屋さんが丸めた餅を店の前に並べ、冷ましている風景があったからです。そして正月は餅三昧。残った餅や松の内を過ぎてお鏡（鏡餅）を割った餅は「水餅」と言って水に漬けてカビが生えないように「保存」する。しかし、食べきれない餅は水餅ですらカビが生え、いつの間にやらどこかに無くなってしまったのでした。もったいない事をしていたものです。

最近ではパック詰めされた餅が日常的に売られているので、そう言った季節感も随分薄れてしまいました。パック餅でも「丸餅」と「切り餅」の両方が見られますね。元来、丸餅は手で丸めて作られるのですが切り餅は、平たく伸ばした餅を包丁などで切るので四角となります。そして並べるとかさばら無い。丸餅は元々関西以西が主で、切り餅は関東を発祥とし、その以北が中心だそうです。

生産性が良く仕舞の良いののは切り餅。合理的な関東人らしい発想です。しかし待てよ、、、発想は違えど関西人も合理性では関東人に負けない筈。何故なのでしょうね？それは鏡餅にヒントが有るのかも、、、鏡餅は丸餅の大親分のようにでかいのですが、新年を迎えるにあたり「無事に新年を迎えられた」と感謝の気持ちで神さんにお供えをする意味があるようです。お供えの意味では饅頭も丸型ですね。と言う訳で丸餅にこだわるのは、例え自分達で食べるものでも、また生産性が切り餅に劣っていたとしても「お供え」の観点から「どこぞの神さんへの敬意^{うやまつ}」が底辺にあつて「丸型」が譲れないからなのかも知れません。かと言って関東人が敬意の気持ちが少ないと言っているのではありませんよ～こだわる部分の違いだと思います。

ところで、餅1個あたり、茶碗4杯分のご飯に相当するのだとか。ただでさえ食っちゃ寝の正月、肥えますわな～（笑）と言う訳で健やかに正月をお過ごし下さい。

2009年12月22日

其の8

●中国を味方につける！？

年末、民主党幹事長の小沢氏が大挙して中国詣でをしたのは記憶に新しいと思います。アメリカへのアテツケと同時に中国への恩を売り、小沢氏の力を中国に見せ付けたのでした。一石三鳥です。

さて、昨年来くすぶり続けている小沢氏とカネの問題。これは中々解明が進まず検察も突破口を探しあぐねている状況なのは周知の通りです。検察は近々に本人からの事情聴取にこぎつきたいとの意向だとも伝わっています。

現在、中国はアメリカの国債保有高は世界一。アメリカは中国を脅威に感じつつ、国債を買ってもらっている負い目があります。この力関係のもと、アメリカが小沢氏に対し日本の司法を通じて圧力を掛け、捜査を推し進めたいと思っても中国からの「待った」が出るかも知れないのです。中国は面子を重んじます。中国の面子を大いに上げた小沢氏を守る事は充分考えられますし、ましてや日中国交を回復した田中角栄氏の愛弟子なのです。

各国の力関係、日本の外交の弱さを巧みに突いて「泳ぐ」したたかさ。これも小沢氏の側面と言えます。

しかし自身の保身で「中国に日本の魂を売った」と言う認識は以前に述べた通りです。彼には国益と言う考えは見られません。

平成 22 年 1 月 5 日

其の 9

●色話し

日常で使う色の名称、、、その昔、日本には色を言葉で表現するという概念が無かったのだと最近知りました。漠然と「明るい、暗い」や「はっきりした、ぼんやりした」と言う表現があったのですが状態を表す言葉が色の表現につながったと言うのです。

つまり、明るいを示す「明かし」は「赤」に、暗いを示す「暗し」は「黒」に、はっきりしている事の「顕（しる）し」が「白」に、そしてぼんやりした事を示す「漠（あわ）し」が「青」となったのだそうです。初めは色を表す言葉は4色しか無かったと言う事になりますね。後に「緑」「黄」「茶」などの色の表現が出てきたのですが、それらは日常の中に存在する物の名称が色を表す言葉になったのだとか。

面白い事に「赤い」や「黒い」などは言いますが「緑い」や「黄い」などとは言いませんね。古くから有る色の表現は状態を示す言葉（形容詞）なのですが、新しい色の表現はそのものを示す言葉（名詞）だからだそうで、色の状態を示す場合には「黄色い」などと「色」と言う字をはさみます。逆に「黒色い」は言いませんね。

「緑」は元来、木の芽などの植物そのものを指す言葉とされますが、少々変わっていて「緑色い」とも言いませんね。そして信号機などは「緑」であっても「青信号」。何故なのでしょうね？

日本人は元来、色に自然を感じ取る部分が有り「緑」には「美しいもの」の意味合いが潜んでいるように思われます。「青空」は空そのものが「青」ですが、「青々とした木々」「青梅」などは緑なのに「青」と言いますね。その事から緑と青は水々しく美しいものを表現する言葉として相互の関係があるように感じます。そして言いにくい「緑い」や「緑色い」の代わりに「青い」を使ったのでしょうか。外国人には自然と融和したこの使い分けが理解不能のようです。

と言う訳で「緑信号」は言いにくいので、ゆかりある「青」を使って「青信号」と言いやすく置き換えたのではないのでしょうか？

ちなみに日本最初の信号機は昭和5年に東京は日比谷の交差点に設置されたのですが、当時の人たちも最初から青信号と言う表現をしていたのでしょうか？もとより信号機の意味が理解不能だった事でしょうね。

エッチな色話しでなくてすみまへん～（^）：

平成 22 年 1 月 12 日

其の 10

●阪神・淡路大震災の記憶

この1月16日はこの大震災から15年と言うことで報道などの特集番組も多く採り上げられているようです。その日私は、朝早くから会社に行こうと車を運転していました。横から突風が吹いたように車のハンドルが利かなくなり、あわてて道路脇に止めて窓から手を出して風を確かめようとしたものの、無風。おかしいと思いながら車から降りると地面がうねっていて、まるで船に乗っているような感覚でした。とっさに「地震」と感じ、辺りを見回すと電信柱や木々がしなまってまるでダンスをしているようでした。車に戻りラジオを点けても通常放送だったのが5～6分して突然、神戸～大阪近辺で大きな地震が発生したとの臨時ニュースが入りました。会社に行くとき事務所のパソコンは倒れている。机の引き出しは飛び出している。揺れの大きな3階の機械は倒れているものが有る、、、と言った有様でした。揺れの凄まじさで工場の一部コンクリートにも真一文字に亀裂が入りました。取り急ぎ家に戻ってテレビを観ると、どの番組も神戸の惨状が映し出されていたものです。揺れが激しかった事でヨメには「肝心の時に家に居てない」と怒られました。再び会社に戻り、出勤してきた社員の中で家に損傷があった者は帰ってもらったと思います。その日に、得意先と約束があったので車で打合せに出ようとしたのですが会社から20m進むのに20分も掛る有様で、神戸の地震なのに、遠く離れた大阪は八尾の細い道まで大渋滞となっていたのです。もちろん打合せは断念して20mを30分かけて“帰社”。また私の住んでいる場所は丁度八尾の自衛隊救援ヘリが通る真下に有り、四六時中けたたましい爆音が鳴り響いていたものです。

震災から2ヶ月以上経った頃に神戸に行ったのですが辺りはまだまだ焦げ臭く、生々しい惨状のままでした。突然襲った地震で如何に沢山の方々が理不尽で不幸な状況に陥ったことでしょうか。

いつ何時来るか分からない地震、、、備えは出来るだけ充分にしないと。必ず来るとされる南海地震。大阪にも断層が走っており、私たちは「他人事では無い」との認識を忘れないようにせねばと感じます。

平成22年1月19日

其の11

●トイレ ウンチク話 ～ウォシュレットと信号機～ (絶対にご飯時に読まないで㊗️～！！)

今や大阪人でも「便所」とは呼ばず「トイレ」と言う言い方が主流となった感じがします。その昔、川の上に小屋を建てて用を足す事から「川屋」転じて「厠(かわや)」とも呼ばれていました。天然水洗トイレですワ～(>ok)他に「雪隠」「はばかり」などとも呼ばれていました。いまでも「ちょっと、はばかりさん」なんて言う人もたま～に見かけますね。

ところで昭和40年代初頭までの大阪市内は各家庭のトイレはいわゆる「ポットン便所」が主流で排泄物を便器の下の瓶に溜めておき、バキュームカーと言うタンクローリー車で定期的に回収していました。ホースで吸い取るのですが固形物が通過する時は、まるで生き物のようにのたうつホースの様子は忘れられません。また用を足す時に下から跳ね上がって来る雫を「オツリ」と称し、それが嫌で新聞紙などを落してふやかし、オツリを防いだものです。「トイレットパーパー」は、かつて「チリ紙」「落とし紙」などと言われていました。瓶に落とすから「落とし紙」なんではいなかね。20年前の中国の田舎。大便トイレは、長い溝に何人もがまたがって用を足す光景が見られました。仕切りなども無く前の人のお尻とウン●を眺めながら用を足すのです。私は使いませんでしたが、、、

その昔、農家にとって糞尿は大切な肥料で、農地には「肥溜め」(「野井戸」「肥タ(ン)ゴ」などとも言われてました)が散在していました。恥かしながら私が幼稚園の頃、肥溜めの表面が乾いており丁度セメントで固めた石畳のように見えたので興味本位でそこに乗っかると一気にドボンでした。かくて私は全身糞尿まみれ、、、採ったザリガニも一緒に沈んで行くのが見えた記憶があります。近所の病院で全身消毒、胃洗浄。その時着ていた服のニオイは取れず仕舞でした。私の体をいやがりもせず丁寧に洗って下さった看護婦さん達には感謝です。当時、肥溜めにはまって溺れ死んでしまう事故も多かったと聞きます。

資料によると日本の水洗トイレの普及率は80%となり大阪市内ではほぼ100%と言われます。アメリカで伝染病を防ぐべく1884年に初めて水洗式トイレが整備されたのが始まりとされますが当初は最終的に

川への垂れ流し。という訳で下水処理の無い、結果的に臭いや病気が蔓延したとされます。その後、下水処理が整備されたのでこれらの問題は解決したのです。

さて、今や歌手のマドンナも愛用している日本の名品「ウォシュレット」。元々、医療用としてアメリカで開発されたのですが、日本のメーカーが民生用として改良を重ね現在に至るわけです。その歴史は水分との戦いでもありました。初期の頃は水気で電気回路や機械部品がダメになる、、、返品の手山だったそうです。試行錯誤の末、辿りついたのが信号機だったのです。「信号機は雨風にさらされているのに何故壊れないのか？」と言うのがそのきっかけです。かくて信号機メーカーの門を叩き、その技術を仰いだのでした。それら改善と共に使い勝手の良さの追求などで、世界でも認められる逸品となったのです。

余談ですが40年以上も前の事。丸一の工場は大阪市内の^{ひらの}平野に有り、夜中に事務所が荒らされた事がありました。そして床にウンコの置き土産が、、、捜査した警官曰く「運が付く」との泥棒の^{いわ}ゲンかつぎだったそうです。かつて糞尿にまみれた私はウン付きまくり！？と言う訳には行ってまへん〜/(´~`)

平成22年2月9日

其の12

●江戸の敵を長崎で ~やはり狙われた！？民主党政権下のニッポン~

トヨタのリコールで日本の旗艦企業のトヨタが逆風にさらされているのは周知の通り。日本の民主党政権下でアメリカの神経を逆なでする姿勢が遂に民間企業の攻撃と言う形で牙を剥き始めたのである。一個人を守るが為の中国への迎合とアメリカを袖にするこの一連の所業がアメリカと中国の軋轢を増したとも言える。

一方、言論の自由を奪う中国の不当な規制に対しグーグルと言うインターネット検索会社を中国から撤退させるとのバトルも繰り広げられており、中国の経済・軍事・企業などの暴走も相まって各国が手をこまねいている状況である。まさに日本の政権はそんな状況に対し火に油を注ぎかねない状況とも言える。

小沢氏の中国寄りの姿勢は個人の保身のみならず、破綻しかけの日本を将来、中国に救済してもらおうとする意図が見えるのは、私の考えすぎなのかモ・・・

しかし政権トップの2人が堂々と脱税してる様は、諸外国から見て笑いものであろう。犯罪者が堂々と詭弁を押し通して政権を担っている国だと、、、揺らいでいる日本よ、何処へ行く？

平成22年2月16日

其の13

●日常の魔物と対峙する

冬季オリンピックが終わりました(パラリンピックは続いています)。人類の身体能力・精神力の極限を追求する大会の後にあった大地震は、人類の力をあざ笑うかのような自然の力をまざまざと見せ付けたように感じます。

さて、このような大きな大会で良く言われるのが「魔物」の存在です。一発勝負の多い競技の中、それまで積み上げて来たものを最大限に発揮しようとしても様々なものが押しかけたり一瞬の気の緩みなどで十分な実力が発揮できなくなってしまう。フィールドコンディションも有るでしょうが、これが獅子身中の虫。最大の「魔物」かもしれません。強い精神力だけでなくいい意味での開き直りも「魔物」から脱し伸び伸びと自分の実力が出せる1つの方法とされます。とは言っても言うは易し、、、極限に挑む人々の努力は我々の想像をはるかに超えるものです。

さて私たちの日常にも身近な「魔物」がいるようです。それらは「気の緩み」「慢心」「見下し」「甘い考え」「タカをくくる」などでしょうか？それらにより「深く考え、予測し、備える」と言う一連の事が軽視されてしまうような印象を受けます。もとよりそのような「考える力」を身に付ける環境に有ったか、進んでその努力をしたか？も重要な要素です。

それらは、ついこの前のチリの地震による気象庁発大津波の避難勧告に対するお粗末な避難状況でも見られ、昨年多発した中高年の無謀な登山による遭難にも見られます。山での遭難は登山者の知識と経験が登

山から撤退する決断をさせ、万が一でも冷静な行動で自らを助ける場合が有るようです。

余談ですが、気象庁が津波の大きさ発表について過大な数字だったと謝罪していました。何故謝罪の必要が有るのか？この場合、予測より小さくて良かったと考えるべきなのです。こんな事で謝っていたらキリが有りませんし、カン違いのヤカラを増やすだけです。結果オーライ。備えは少々大げさでも良いと思います。

3月1日の朝礼+α

其の14

●東大寺の「お水取り」

毎年この時期の恒例のニュースに「お水取り」があります。大松明が火の粉を散らしながら二月堂の回廊を舞うさまは、勇壮で荘厳な雰囲気です。この行事は1260年もの永きに亘り切れ目無く続いているようで、一連の行事は僧侶の修行の一環とされます。(西暦751年が行事の始まりだそうです)

さて、火が主役のようでも「お水取り」と言われるのは何故なのでしょう？

「お水取り」は旧暦二月に二月堂で修行をする会と言う事で、正式に「修二会」と言うそうです。これは元々東大寺が建立された時に全国から集まる神さんの会を指したのだそうですが、ある時、若狭の神さんがその修二会に遅刻したそうです。若狭の神が、魚つりに夢中になってしまったのがその原因だそうで、お詫びとして若狭地元の清らかな井戸水(井戸とも云われる)を贈るようになったのだとか。その井戸水を使って修行仕上げとする事から「お水取り」言われるそうです。1200年以上前の失態を未だに担ぎ出されるとは、若狭の神も可愛そうなものです(笑)

今では、修二会は僧侶の修行としての意味があり、修行僧が修行の仕上げで二月堂に登る時の足元を照らす役目としてその松明があるのです。しかし、足元を照らすだけならあんな大袈裟な松明は要らないですよ。大々的にする事により、修行のゴールが近い事を修行僧に自覚させ最後の踏ん張りを助けるのと、それを周囲にも知らしめる目的もあったと思われます。また、この行事により春の到来をも奈良中に宣言する意味合いも有ったのでしょうか。桜が美しく、新緑のまぶしくなる季節ももうすぐです。

平成22年3月16日

其の15

●驚異の靴下 ～モノの寿命と経済循環～

ウチのヨメが20年来履いている靴下があります。その靴下はアメリカの知り合いから頂いたオリジナル品で、生産を委託しようとして何社かに断られ、ようやく千足作った中の1足のようです。それは「ケブラー繊維」と呼ばれるもので編まれており、極めて丈夫。擦り切れもしなければ、毛玉も出ません。保湿性だって程よくあります。当時の製造原価は千足の小ロットでも当時の為替レートで1000円程度と言う事で思った程高くないのです。今や「健康靴下」となれば1000~3000円の価格帯があるようで、それを考えれば売り値が3倍の3000円と設定されても20年現役であれば安いものとは思いませんか？流行は抜きにして、、、ですが。まあ、20年履ける靴下が蔓延したら靴下工場も上がったりですね。

さて、戦後に強くなったのは女性とパンストとよく言われたのも一昔前。強くなったパンストと言えども未だに少しの引っ掛かりで伝線、破れはザラにあるようで、コンビニの売れ筋定番の1つでしょうか。本来であれば、簡単に傷んでしまわない技術は確立しているでしょうに、買い替え循環を計算に入れた強さに設定されているようです。

昔ながらの蛍光灯・白熱電球も然り、で見事なまでに決まった期間内で寿命が来てしまうようです。技術的にはそれらの寿命がもっともっと延ばす事が出来、量産も可能なのです。しかし、それらが余りにも寿命が長いと中々替えてくれない。すなわち買ってもらえないのです。と言う訳で、うまく循環するような寿命設定のようです。

数日前に東芝が白熱電球の生産を中止し、LEDなど新しく環境にやさしい光源の工場に特化する方針を唱えていました。材料、生産に要するエネルギー、消費電力などをトータルしたCO2削減の貢献度もデータで

示していたようです。一方で、新しい光源としての LED 電球は 4000 円前後と高い値段設定です。これは同等のワット数の白熱球にすれば 60～80 個に相当する売価と推測できるのですが、LED の原価を考えると極めて高額の設定といえるでしょう。LED 電球は寿命が長く (10 年!!)、消費電力が極めて少ない高付加価値商品として買い替えも少ないと考えられるのでこの値段なのでしょうね。このようにモノの価格はモノの買い替え循環サイクルによっても決まる側面がありますね。

平成 22 年 3 月 23 日

其の 16

●自転車化する!? ハイテク製品

かつて日本は白物家電の生産王国であった。テレビも然り。高度な品質管理は日本のお家芸的な要素も有り、世界から信頼を寄せていました。

しかし、IC (集積回路) に代表される電子技術の進化により胆となる部分が容易に入手できるようになるに連れ、周辺部品を集めて組み立てるだけで完成品ができる時代となってきました。従って、組み立てなど労働集約型の産業は賃金の安い国々でも、そこそこの品質でこなれた価格のハイテク製品が出来るようになってしまったと言えましょう。

電気自動車だって電池とモーターがあれば後はボディと足回り、それに IC によるコントローラーがあれば乱暴な言い方をすればプラモデルのように作れる時代となってきたのです。ガソリンエンジンのように高度な加工技術や理論もあまり必要ない、と言う訳で中国でも新興電気自動車会社が出来つつ有るわけです。

中国とは一線を画し自分達の持つ技術で高度な電気自動車を創る会社もアメリカや日本でも出来つつあります。

このように自動車も家電化しつつあり製品の区分も不明確になりつつあると言えなくはないのです。身近な乗り物の自転車は、極端に言えば部品の寄せ集め。分業が進んでいたこの業界は部品を集めれば自転車が出来上がっていたと言っても過言ではありません。そう言う意味でもハイテクと言えどもかつての労働集約型の自転車産業と変わらなくなった部分もあるかも知れません。

ハイテク製品の中の IC 部品は高度化しコンピュータそのもので、その中のプログラムが重要なのはトヨタ自動車のブレーキ問題でも良く解ります。そのプログラム技術進化と保護が今後重要となる訳ですが各製品が全てハイテクで占められている訳ではありません。日本の「匠」と言われる「伝統技能」が新たに「技術」として見直され蘇らせるのも日本の製造業活性化のヒントとして注目されています。と言う訳で、それぞれの会社にある「技能・技術」を「価値有る技術」に出来ないかを見直すのも良いかも、、、です。

平成 22 年 3 月 30 日

其の 17

●いつか来た路

最近、中国から日本に買い物をしにくるニュースを見聞きするようになりました。ツアー旅行で押し寄せ、それぞれお目当てのものを買い漁るのです。受け入れ側も中国語を話せる店員を置いたりして、お金を如何に落としてもらうかに腐心しているとも伝えています。

はて、どこかで見た風景、、、そうですね、かつて日本がバブルの頃、海外旅行に行ってブランドものを買って漁る風景と良く似ています。その頃、日本全土の土地資産でアメリカの全土が 2 つ買えると言われる程無茶苦茶な状態だったのです。そして当時の名だたる企業がアメリカのビルや会社、ショッピングセンターを次々に手に入れて行ったのです。アメリカ人としては不愉快な思いをしたと思います。バブル崩壊後は施設や会社を維持できず、原価割れで売っぱらってしまった事もニュースに流れましたっけ。

今正に、外国企業が日本の会社を買ってゆくのが顕著になってきました。日本での企業活動以外に、日本企業のブランド、技術、販売、流通ノウハウが目当てです。それ以外に、三重県の水源を含めた土地を第三者を通じて中国投資家が買おうとしてまさに水際で食い止めた事がありました。中国での水不足を見越して日

本のブランド水の販売を目論んでいたようです。目の前に水源が有りながら、日本人が利用できない、、、と言う事が起こる寸前だったのです。

中国はバブル経済真っ只中、日本、米国などと同じ轍を踏むのでしょうか？中国のバブルがはじけたら凄まじい影響が出るかもしれませんね。その前に何らかの政変が起こるかも、、、！？

平成 22 年 4 月 13 日

其の 18

●トラスト・ミー ～誰が評価するのか？～

日本の首相がアメリカの大統領に言った言葉。“TRUST ME”（私を信用して下さい）、は言わずと知れた沖縄米軍基地の移転の件で軽々しく吐いた言葉です。内閣や政党の支持率が下がっても、丸で馬耳東風。「地道にやっている私たちを見て欲しい。」「国民の利益を考えて政策」挙句は、「私たちも一生懸命やっています。」とノタマウ。数年前から私が言い続けて来た事。それは「民主党は元々は自民党出身者が多く、色んな政党の寄せ集めで烏合の衆である。従ってまとまりは無い。」と言う事です。一時は民主党党首をしていた現幹事長も、骨の髄まで自民党であるとの私の意見も昔から変わりません。民主党を乗っ取った状態なのは周知の通りです。

そもそも評価とは、自分でするものではなく他人が判断するもの。何時だったか、朝礼で野球を引き合いに出した事がありました。打球を追っかけたが捕れなかった野手に対し、観衆の反応は大きく分けて二つ。ブーイングか、ため息。ブーイングは「ちゃんとやらんかい！！」と言う叱責。ため息は「惜しかったな」と言う中に「一生懸命やったのに残念だったね」と言う気持ちがこもります。

もとより結果が一番重要ですが、思うような結果が出せなかった、、、と言えども周囲から見て精一杯やっている姿勢が評価につながり、周囲の後押しも得られる場合が多いのです。周囲を納得させる努力や姿勢は非常に大事だと感じます。

平成 22 年 4 月 20 日

其の 19

●子供の日よもやま話

5 月 5 日は子供の日、別名「端午の節句」「菖蒲しょうぶの節句」などとも呼ばれています。この風習は奈良時代からあるとされ、元々は 5 月に限った事ではなかったようです。しかしながらこの節目は月始めの「午（うま）」の日とされ、午→ご→5 を連想させることから 5 月の 5 日がその日になったと言う説もあるようです。

江戸時代の武家中心の社会になると、厄払いの薬草である「菖蒲」が「尚武」を連想させる事から、男の子が武運に恵まれるよう成長する事を願うまつりごとに変化したとされます。

一方、町人の社会では武家の真似事と言う訳ではないでしょうが甲冑を飾り、やはり男の子の健やかな成長を願ったとされます。これは当時、士農工商と言う身分階級に対する商人の武士に対するささやかな対抗心だったと見る向きもあるようです。

さて、子供の日につき物とされた「鯉のぼり」。これは元々、この節目の日に男の子がいる武家が家先に「のぼり」を立てていたのが派生し、勢い良く滝を登る鯉の力強さにあやかろうと鯉の絵を描き、やはり子供の健すこやかな成長を願う親心を写したものだそうです。

大きな鯉のぼりが勇壮に舞う姿は力強さを感じますが、大阪のこの近辺ではほとんど見掛けなくなりましたね。ちなみにお隣の国、韓国でも 5 月 5 日は子供の日と定められているようです。

平成 22 年 4 月 27 日

其の 20

●パソコンを日常使っていても痴呆症になる！？

今やパソコンは仕事の道具として幅広く根付いています。また家庭でもパソコンが普及しそれらを活用するのが当たり前の社会に近づいてきました。パソコンは指先でキーボードを叩き、思い思いの作業を手助けしてくれます。指先を使っての作業は脳に刺激を与え、脳の衰えを防ぐとされるのですが、どうやらパソコンは違うようです。

ある旅行会社の話。旅行のスケジュールをパソコンのプログラムにのっとり入力して行くとバスや電車のパターン、現地の旅館や施設の選定、料金までも自動でやってくれる、という訳で機械任せながら「仕事」をしているように感じます。しかし、何も考えずにデータを入力していると脳が「パターン化した信号」しか受けなくなり「考える事無く仕事をする」という事態になるのです。かくて、この旅行社のある社員はバリバリと「仕事」をしていたのですが40代手前と言う若さで痴呆症（アルツハイマー病）になってしまったのです。

では、ワープロはどうでしょうか？文章を考え、組み立てて自分が伝えたい事を表現するので、これは脳に刺激を与えてくれるだろう、と前出の例とは違うと感じます。

しかしながら、字を手書きで「書く」と、ワープロで文字を「出す」とは大違いで、その実、同じ文章を作っていても脳の活動場所が大きく違う部分があるのだとか。文字を書くことは、文字自身とその組立てを思い出しつつ脳の信号を手に伝え、筆記具で紙などに表現する。片やワープロでキーボードを叩く場合その過程が省かれ、文字は単なる「符号・記号」となってしまう、文字を手書きで書く際の脳の信号とは大きく違うので脳の活性化には不十分だとされます。編み物をする時、手編みするのか？機械で編むのか？の違いと言えば判りやすいかもしれません。手編みは考えながら編み目を見て五感で仕上げて行きます。機械編みはセットすれば何も考えず機械を動かせばモノになります。そんな感じでしょうか？

その人にもよるでしょうが、機械に頼りすぎると人間が本来持っている機能が衰えて行くようです。パソコンは両刃の剣。便利な分、人の考える力を注げる余地が入る工夫が必要なのだと感じます。

平成 22 年 5 月 25 日

其の 2 1

●中国の熱と冷

今は上海万博の真っ最中ですが、40年前大阪でも万博があったのですが、その時は日本の高度成長真っ只中。当時の国民的歌手“三波春雄”の「世界の国からこんにちは」と言う唄を思い出す方もおられるでしょう。この時は結構日本が沸きかえったように記憶しています。入場者も6500万人と盛況を極めたものです。外国に馴染みがなかった日本人にとって、さまざまな国のパビリオンや人々にわくわくしたものです。

さて、中国では昨年の北京オリンピック、今年の上海万博と立て続けに国家的大きな行事が開かれており、多くの国民を巻き込んでいるように感じます。実際、北京オリンピックでは五輪関連の番組の視聴率が脅威の90%以上と、国民の関心の高さを誇示していました。

ところが実際、このように広大な国ともなる上海では「北京五輪」は他人事、同じく北京では「上海万博」も「他人事」なのです。そこで沸いてくるのが先ほどの「北京五輪視聴率90%以上」と言うナゾです。これは言い換えれば「視聴可能な人口の内9割以上の人に関心を持って見ている」と言うように捉える事ができます。これには簡単なカラクリがあります。1つは「どの番組を見てもオリンピックしか放映していない事」。それと、トリック的な手法による「視聴率のカサ上げ」によるものだったとされるのです。

さて方や「上海万博」ですが、大阪の万博の入場者数をかなり意識しているとされ、先ほどの日本での実績6500万人を抜くことを至上課題の1つとしているようです。開催当初こそかなりの来場者があったようですが今では1日20万名そこそこ。半年の開催期間で6500万人を越えようとすれば単純計算で1日あたり36~40万名もの動員が必要となります。とても追いつきそうに無い数字です。その、要因として先ほどの他地域の無関心、そして多くの国民にとって高い入場料などが挙げられており面子を重んじる中国政

府は対策に苦慮しているようです。その「対策」の1つに昨年から導入された「子供の日」に便乗した施策です。昨年は6月に1日間だけ設定されたのが今年は5日間程に延長され、万博の無料招待券がバラまかれたようです。「子供の日には、万博へ行きましょう～」と言うことでしょうかね。余談ですがこう言った状況で「万博展示や販売で商品名や社名が出れば“中国で全国区”」は幻想の部分も有るようです。

と言う訳で、北京五輪の時には上海空港には、広報のポスターや垂れ幕などは無く逆もまた同じなのです。北京五輪のメインスタジアム「鳥の巣」ですら地元住人の中には何か知らないと言う事もあったようです。国家の威信を掛けているにも関わらず、あまり国民に知らされていないことによる意識のギャップと無関心。それら冷熱の矛盾は摩訶不思議な状態を作り出しているようです。

平成 22 年 6 月 8 日

其の 2 2

●これからの季節、、、

梅雨に入り食べ物や健康により一層気を配らねばならないですね。また、テレビなどでは虫除け・殺虫剤・かゆみ止めなどのCMが良く流れています。昨今は、今までと発想の違う防虫剤などもあって面白く、選ぶのに迷いそうです。

また、この時期の虫の「かゆみ」と言えば「蚊(ア)」を思い出す人も多いと思います。池や水溜りも減ったと言うのに、こやつだけは何処からともなくやって来て「あっ」と感じたと思ったら「かゆみ」の置き土産を残してゆく憎っくきヤカラです。

ところで、皆さんはどのような表現を使われていますか？例えば、、、

「蚊アにかまれる」

「蚊アに刺される」

「蚊アにやられる」

「蚊アにいかれる」 などなど

かゆみ止めには「虫刺され」と言うのが付き物ですので「刺される」が本来の表現でしょうが、色んな言い方があるのは興味深いものですね。

さて、地球温暖化の影響からか、蚊の分布も南方の種が北上しておりそれに伴い伝染病も北上していると言われていています。防虫も大切ですが、万一の感染に耐えられるよう健康（体力）維持も怠りなくです。

余談ですが、殺虫剤で有名な「フマキラー」は“フライ（ハエ）” + “モ（マ）スキート（蚊）” + “キラ” の造語で「ハエと蚊の殺し屋」と言う意味だそうです。私は未だに和田アキ子が昔やっていたフマキラーのCMを思い出してしまいます。それだけ強烈な印象だったのでしょいかね（苦笑）

平成 22 年 6 月 15 日

其の 2 3

●事前の尻込みは、後の百策を無力にする ～マスコミの脅威が萎縮を招く？やぶにらみの私見～

宮崎県を揺るがせている「口蹄疫」。予兆の始まりは4月半ば過ぎ。経験の浅い獣医師、的確に判断できなかった現地役人と中央政府。さまざまな要因があろうかと思いますが、大きな要因が2つ

まさか口蹄疫ではないだろうという「負の要素に対する希望的否定」そして「もし発表して間違いだったらさまざまな批判にさらされる」と言う物事に対し半身であり、深層心理的に責任から逃れたいとする部分があると見ています。

今やマスコミなどは何かネタがあれば批判し、オニの首をとったような報道の姿勢が強く見られるのは周知の通りです。報道する側は「聖人君子なのか？信号無視もした事が無いのか？」と言うギモンは以前「余談」でも書いた通りです。そのような状況で「間違った発表になってしまうと後で批判される」と言う恐怖心、責任逃れで正常に下さねばならない判断をねじ曲げてしまったのかも知れません。

片や、欧州では口蹄疫に対し、予兆～検査～最終判断まで数時間で処理できるシステムを作り上げ、万一

に備えているのです。例えその判断が結果的に間違っているとしても「何も無くて良かった」と言う大人の対応が出来るのです。つい数ヶ月前の太平洋で起こった地震の津波予測が実際より過大だったと謝っていたのは、マスコミ批判恐れを表れでしょう。謝る必要なんかないのに、話に戻しましょう。このシステムは日本でも実効可能でシステムの構築には今回の酪農家への補償費用を考えたら遥かに少ない費用で済んだはずで、酪農家のみならず「酪農の城下町全体」で見れば被害甚大で、本来ならば酪農家だけへの補償ではすまない失政なのです。「事前の一策は、後の百策に勝る」のです。

多くの牛豚が殺処分される中、農水省の現地滞在役人さんが「家畜の扱いになれていない!？」ので作業が進まない!？例え役人と言えどもその地域で積むべき経験があるはずで、私は大昔、2年程道路工事をしていた経験があるのですが、当時の建設省の地方事務所にあるダンプカーはいつもピカピカに磨いてあり、資材や機材を載せた形跡は一切無かったのです。事務所に入るといつも暇そうに新聞を読んだり、将棋を指している役人さん達の醜態を目の当たりにしたものです。日ごろ何もしていないから、いざと言う時に役立たない。

今回の件は、日本の危機管理の無さを露呈してしまい、マスコミの批判姿勢にも一層磨きが掛かってしまいました。マスコミは起こってから出なく何か事が起こる前に問題提起し、事前の一策を講じるよう報道姿勢を改めるべきでしょう。事が起こってから批判するのは誰でもできます。

余談ですが、相撲と暴力団の関係を声高に批判していますが、報道関連も闇社会との関係を考えると笑ってしまいます。放送局の不祥事は、各社ソフトに、自社の場合はさらっと流して報道するのを見るにつけ、いざ自らが報道される立場になると、その報道姿勢の落差にオドロキます。

2010年6月22日

おまけ

●急速に低下する日本の国際的地位

1人あたりのGDP

2000年3位→2008年23位

●市場の主役は「国内。先進国」から「新興国」へ

2009年～2015年までの市場拡大予測

- ・新興国 14兆ドル
- ・先進国 10兆ドル
- ・日本 1兆ドル

●日本企業は生産拠点のみならず研究開発拠点も海外移転を進める

●日本製品のシェア低下

- ・液晶パネル 1995年100% → 2005年10%
- ・DVDプレーヤー 1997年95% → 2006年20%

※ 話題の3Dテレビも日本勢は惨敗の兆しが有ると言われています。

2010年6月22日

其の24

●水は固くて柔らかい!?

梅雨に入って長時間の居座り豪雨、ゲリラ豪雨などのニュースが増えました。このような傾向は増えつつあり、大きな水害になる事もしばしばです。2004年兵庫県豊岡市の台風による大水害以降このような水災害は異常気象により確実に増えると災害直後の朝礼で話をした記憶があります。

ところで、卵を10mの高さから落とした時、芝生に落とすのと水面に落とすのとではどちらが良く割れると思いますか？答えは「水」。皆さんも身に覚えがあると思いますがプールで飛び込みに失敗した時、胸から腹のあたりが赤くなってしまいう程したたかに水面に打ってしまう事がありましたよね～？

水は衝撃が加わると、時としてコンクリートよりも固くなります。水の破壊力はすさまじく、それらが災害を大きくしているのは言うまでもありません。そう、水は氷らなくても固いのです。

近年の異常気象による大雨は、今まで危険とされなかった地形ですら自然災害の可能性を高めるようです。昨年の台湾で起こった大規模な土砂災害では山が大きくえぐれたように崩れる「深層崩壊」が原因だと、ある番組で特集していました。この「深層崩壊」は台湾土砂災害の原因究明で判ったもので、極めて新しい説なのです。地層が長期間にわたるさまざまな力で曲がり（褶曲）、地層のあちこちに亀裂が入る。当然地層の深い部分にもそれが生じる。通常の雨だと水は地層を通り抜けるのですが、余りに多い雨量だと亀裂が多量の水を含み、地層の下部にある亀裂が浮力などによって断裂。地層の下の方から溜まった水により地層の深い部分から水の浮力によって不安定な状態となる。そして重さに耐え切れなくなって山がごっそりと崩れてしまうのです。崩れた山は土石流となって怒涛のように流れ下り、ふもとに集落があれば大災害に至るのです。この時、土砂も含んでいるのですが「固くて柔らかい」水は地形に沿ってしなやかに移動し破壊の限りを尽くします。この説に基づいた「深層崩壊」の危険箇所は日本でも多数見つかっており異常気象による大雨災害の可能性が懸念される場所です。

また、大地震などによる津波は海岸からですが破壊力も凄まじく、ジワリと50cmの増水だけで1平米あたり200Kgの圧力が増えるのだとか。怒涛のように押し寄せる津波となると、その破壊力は推して知るべしです。

余談ですが時代劇で和手ぬぐいを水で濡らして武器の代わりにする、と言った場面がありました。これは古くからある護身術の一つだそうで、手ぬぐいは水を含む事により、しなやかに固い武器に変身するのです。

平成22年7月13日

おまけ タコくんの占い

サッカーワールドカップ2010の熱戦がようやく終わりました。その間、話題の一つにタコの「パウルくん」の占い？が有りましたね。勝利チームを見事に予言し続けました。タコの眼は体の色を変えて見つけにくくする事ができるような色や柄の判別ができるそうです。そして、一説にタコは「赤」が好きで、タコにとって赤が際立つ国旗を選んだだけ、、、とか。で、たまたま選んだ国旗のチームが勝った（失礼！）

今回は各チーム実力が伯仲する中、偶然が重なったのでしょうか。まっ、天才動物や占い動物はこんなもの。動物の本能や特性を上手く利用したお遊びが多いですね。

平成22年年7月13日

其の25

●日本の花火の原点

梅雨明けを皮切りに日本各地で花火大会が開かれます。日本の夏の風物詩でもありますね。初めて日本では花火が打ち上げられたのは1610年、徳川家康の駿府城だそうです。家康は花火師をイギリスから招き披露させたのだとか。当時の花火は色も一色で音も単純なものだったのですが今でも外国の花火はその頃からあまり進化していないようです。

さて日本に「輸入」された花火技術は独自に進化・深化し色のみならず音の演出も巧みに繊細かつ豪快なものとなりました。とは言うものの、彩りや音の演出がある花火の原型は明治時代に入ってからだそうで花火が日本に入ってから300年近くの時間を要したようです。

平成22年7月20日

おまけ 今年大阪で開催される主な花火大会

7月20日 羽曳野石川公園

7月25日 天神祭り

7月31日 岸和田港

8月1日 PL 花火大会

8月7日 淀川花火大会

8月8日 茨木の弁天宗夏祭り花火大会

9月14日 大阪平野区川辺地区で行われる秋祭りの花火

平成22年7月20日

其の26

●変わる生産の根幹

近年、資源の高騰によりさまざまな産業のシクミが変わりつつあります。今までひたすら供給すればよかった資源はそれぞれの産出国が自我に目覚め「資源を持つことの強み」に気づき始めたのです。即ち、それまで「買ってもらっている」立場から極端に言えば「売ってやる」姿勢へと大きく舵を切っているのです。それは資源の価格決定権を産出者（国）自らコントロールするようになって来たことから判ります。世界経済が膨張し、供給がタイトになると「高く買ってくれる所に売る」と言うごく自然な状況となったのです。もちろん投機的な要素も大きな影を落としています。それに加え今まで使い途が限られていた産出量の少ない希少金属（レアメタル、レアアース）の需要も急増してきた事も、それらを後押しします。この状況下、モノ作りが原料高の逆風にさらされ、製造業は「本当に求められているもの」「付加価値の高いもの」への更なるシフトを図らねばならないとは以前から「良質のモノ作り」するべきと言う根拠の一つです。

さて、石油や鉄鉱石に代表される鉱物資源とは別に、生物資源なるものが近年注目を集めています。それらは産業として利用される事が前提の、漢方薬に代表される「植物」その土地で採れる固有の「生物」や「微生物」それらに関する「遺伝子」などが生物資源とされます。それらの資源も注目を浴び、需要が旺盛になって来ている事から取引価格が高騰しているそうです。もちろんそれらを保護育成する事も重要な課題です。それらを買う国や企業に対し、保護費用を上乗せする取引条件も増えつつあるようです。

また、動植物、微生物などは一旦国外に持ち出されると海外で育てたり、増殖させたりする事が出来るので門外不出の姿勢を貫いている国もあります。産出国内で生物資源を研究し、資源を海外に出す事無く自国の資源を薬品などの製品まで加工する一貫生産を目指す国も出てきているとか。

資源が無ければ求めるモノは作れないのです。その事を踏まえ資源産出国は、ただただ資源を供給するだけでなく自国にとってどうすれば有利か？を模索する経済上の大きな武器となってきました。

片や、海外や地域外に持ち出しても資源として使えない、若しくは製品にならない植物資源も存在します。身近な例で言えばワインのブドウ。その土壌、気候などさまざまな要因でおいしいワインが出来るのですが同じブドウの木を別の場所で育てても同じ味わい、風味は出ません。また、漢方薬やアマゾンの薬草も同じで、その植物を他の地域で育てても期待する薬効成分は得られない可能性が極めて高いのです。以前、信州の野沢菜について書いた事があります。野沢菜は大阪に来ていた修行僧が「天王寺蕪^{かぶら}」を気に入ってその種を信州に持ち帰り、そこで育てたら、やたら葉っぱだけが大きくなってしまった。そしてそれが野沢菜のルーツと書いた事があります。これも同じく土地が変われば求めるものが出来ない例の一つだと思います。

平成22年7月27日

其の27

●戦争に反対した帝国軍人

間もなく65回目の終戦記念日を迎えるわけですが、戦争の記憶も薄れ、また戦後の貧困時代～その後の高度成長も遠くなりにはけりです。そして今や日本は「衰退途上国」の筆頭である、とは諸外国の評価です。

さて日本が第二次世界大戦を起こしたのは国土の狭さとそれに伴う資源の乏しさを戦争で他の領土占領支配して補うのが目的の一つと言われています。一時は占領地域を拡大、満州国として中国をも支配下に置いた時、日本の人口は1億人を突破する程でした。

さて戦後、A級戦犯として裁かれた「東条英機」は戦前、軍部で頭角を現し満州国の広東軍総司令部を経て帰国後には軍のNo. 2となったのです。それ以後は軍事政権の「国防大臣」そして「総理大臣」へと一気

に昇りつめたのです。東条は秀才の誉れ高く、内容は別としてそれまでの努力は半端では無かったと思われるます。

ところで、その東条にとって脅威のライバルがいた事をご存知だろうか？

「秀才」東条英機に対し「天才」石原莞爾（かんじ）と言う帝国軍人がいたのです。彼は天才的な直観力で日本の敗戦を予見し戦争に反対。軍人の心構えである「軍人詔勅（しょうちよく）」でさえ部下に読ませなかったと言います。帝国軍人と言うのに司令部の方針には背いていたのです。石原は東条に満州国統治について直談判したり、大学の講義で東条批判をしたりして彼を悩ませたのでした。戦時と言うのにちょっと信じ難い事です。東条は石原の天才的な直感や理論に嫉妬し、閑職へと追いやったとも言われますが、東条の力からすれば戦争反対の石原を何らかの形で抹殺する事も出来たでしょう。それをしなかったのは彼に嫉妬しつつ、心の奥で敬意を払っていたのかも、、、とは私の想像です。

東条と石原、ひょんな事で2人の立場が違っていたら今の日本はどんな国になっていたでしょうか？

平成22年8月3日

おまけ セミヌード

この時期、セミの鳴き声もかまびすしく暑さを増幅させてくれます。私の夏の楽しみの一つがセミの脱皮を観ることなのです。夜の8時頃、幼虫は地面から這い上がり始め場所が決まると脱皮が始まります。

脱皮中のセミは透明感が有って美しく、^{こうごう}神々しいものを感じるのです。脱皮完了までは他の天敵も襲う事が無く、自然界の掟やルール、シクミが垣間見えます。一方で、脱皮の途中でトラブルに見舞われ、途中で息絶えてしまうセミもあります。数年間土の中で暮らし、やっとの思いで地上に出たのに自然とは言え厳しいものです。このセミヌードショーはお盆前の夜12時頃まで見られます。見るなら蚊除けをして行きまショウ。



写真：クマゼミの脱皮（撮影 杭全公園 2009年7月24日 PM9:00～10:00, 頃）

平成22年8月3日

おまけ

来年の統一地方選挙大阪の陣は激震！！

大阪の地方選挙かつてない激震が起こる。現府知事は任期満了後大阪市長選に出馬、橋下知事の代わりに読売テレビの辛坊アナウンサーが大阪府知事選に出る。大阪の地方議員（府議、市議）の候補には大阪維新の会から大挙出馬の可能性があり、自民党から出ていた平野の現府議・前市議さんも維新の会で立候補（前市議の維新の会からの出馬は不確定要素有り）。平野区選出市議には維新の会から2人の候補者を予定しており、自民党も戦々恐々でオドシ、スカシであの手この手で阻止に走っている。もし府知事ー市長が思い通り当選し、維新の会会派が府・市議会で十分な議席を確保すれば「大阪府・大阪市の併合」が一気に加速。地

方政治が大きく変貌する起爆剤となり、閉塞感漂う国政も活性化せざるを得なくなる、、、と言った政治の変革がぐっと手繰り寄せられる可能性が出てくるのです。これが彼らの描くシナリオの大筋なのです。

一般に「今のままが楽で良い」と言う既得権益などの温存をもくろんで保身に回ろうと組織やシクミは自浄能力に欠けます。それを改革するには強烈な外圧と協力者が必要なのです。

本日（8/3）辛坊アナウンサーが9月退職すると言う発表を受けてお知らせできるようになりました。

平成22年8月3日

其の28

●マツタケよもやま話

盆も終わり、昼間のセミの声も少なくなる一方、夜になると秋の虫の音が聞かれるようになりました。秋の足音は、まだまだ暑いながら季節の移ろいを感じさせてくれます。

さて、秋の味覚の代表格に松茸があります。国内産は高くて手が出ない一方、輸入品が手頃な価格で売られる事もありますね。輸入松茸は、北米、北欧産の白っぽいものから、韓国、中国などの日本の松茸に近いものまであり、香りの強弱は有れども秋の食生活に根付いていますね。世界の松茸を集めるべく業者は輸出入を開拓するのにかなりの労力を割いて全世界から情報を得ているようです。情報があれば飛んで行き、物が納得できるものであれば即交渉に入る。現地では見向きもされないキノコを日本人がソコソコの値段で買ってくれるのを不思議がります。一方で今まで不可能とされてきた「松茸の人工栽培」はここ2～3年で実現の可能性が有り、そうなれば1年中手頃な値段で手に入るとも言われています。「しめじ」もかつて不可能とされた人工栽培が長年にわたる研究の結果、量産体制が整い手頃な価格となりました。今や、研究のお陰でさまざまなキノコが身近になったのは皆さんの感じるところでしょう。

また「松茸のかおりお吸い物」に代表される人工の香りは数十年前に開発され、その香りを利用して炊き込みご飯のような調理食材としても利用されています。また、香りの弱い輸入松茸にもそれを振りかけて香りを付けているのだとか、、、

余談ですが、中国産の食材の中で一番安全とされるのが松茸。ただでさえ人工栽培が難しい松茸は、微妙な環境バランスが必要なので自然環境に何らかの手を加えたり土壌が悪いと決して育たないのがその根拠とされます。要するに農薬や添加物が一切介入しないとされるのです。と言う訳で中国からの輸入松茸での偽装は、釘など重たいものを茎に刺して重さをごまかすのが関の山のようなようです。でも、これって悪質ですね～。（収穫後にしおれない葉を降りかけているとの情報もありますが、、、）

ちなみに私の携帯メールの着信音は昔っから「キノコの唄」です。って関係ないっか～（笑；

平成22年8月17日